

年(平成27年) 8月31日(月曜日)

投入前のチップ含水率は50%程度だが、建築廃材由来のリサイクルチップを燃焼し、発生させた高温ガスを利用した乾燥設備にかけ、含水率を35%前後に下げた後、発電所に投入することで、燃焼効率を大幅に向上

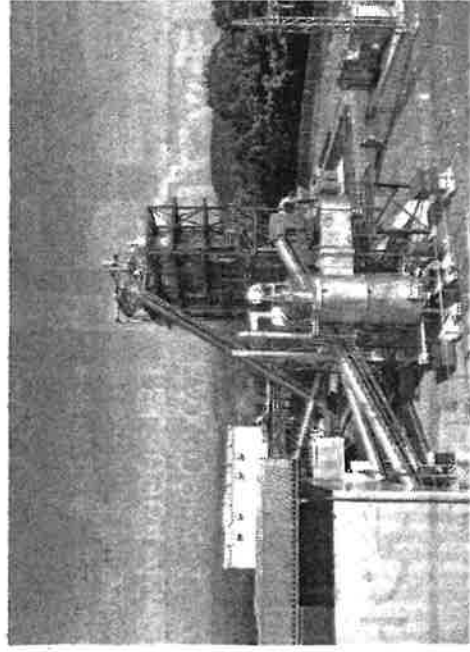
している。焼却灰については、水質浄化剤「ヌダカ君」の原料としてリサイクルする研

究・開発を進めており、年内に発電所の敷地内に製造工場を整備する予定だ。同浄化材は、水性塗料洗浄廃液や浄化槽汚泥などの工業・一般廃水、食品関連排水、土木建築廃水、ペトロ水など幅広く対応する。

さませ。効率的な乾燥システムを構築したことで、より多くの林地残材を活用し、山元へ還元して

# 稼働から約2年が経過

## グリーン発電大分



グリーン発電大分の「天瀬発電所」

天瀬発電所に設置された破砕機「LOG BUSTER」シリーズも、長年の実務経験を生かし、燃料収集を担当するグループ会社の日本フォレスト(大分県日田市)と、建設機械メーカーのオカダアイヨン(大阪市)とで木質バイオマス燃料の生産設備を共同開発している。近日では発電所向けのチップ生産用に、都市樹木再生センター(大阪府大東市)で採用された。

発電用の燃料は、

日田市地域を中心とした林業者など約30社で構成する日木木質資源有効利用協議会がスギ、ヒノキを中心に年間約7万立方メートルを収集。さらなる安定供給につなげるため、新たに2万6000平方メートル以上の木ストックヤードを追加整備した。

日本フォレストの森山和浩社長は、「木質燃料の特性に合った設備や、メンテナンスを含む発電所の運営ノウハウを含めた同社グループの発電事業を『日木チール』として発信していく」と述べた。